

# ピナ・バウシュ(PINA BAUSCH) の作品に関する研究

-作品『DANZÓN』のもつメッセージ性について-

日本体育大学大学院 安則貴香

## はじめに

“人間にとって舞踊とは何か”が問われるようになって久しい。特に近年では、人間の身体を心(精神)と身(肉体)との総体として捉えていこうとする立場に立って、われわれ人間にとって身体を動かす意味そのもの(=精神の発露としての身体)を今一度見つめ直し、再びトータルな人間の生き方(在り方)を取り戻そうというのである。

周知の通り、ここで取り上げる PINA BAUSCH (独: 1940~) もこうした状況を敏感に察知するコレオグラファーの一人である。本発表は、自らの作品を通して何を世に問おうとしているのか、あるいは「現代(いま)」という時代をどのように認識しているのか、彼女の作品『DANZÓN』から見ていこうとするものである。

## 『DANZÓN』の概要とその解釈

『DANZÓN』は、観客と舞台の区別から、赤ん坊のハイハイしているシーン、男女の性的な戯れ、一枚のドレスをめぐる着せ替えごっこ、子供時代の出来事、詩の朗読、キャンプ場での語らいなどの断片があり、断片と断片の間には突如ダンサーたちのソロが始まるなど、混沌としたものである。所々で映像が用いられ、舞台一面の大スクリーンが作品の間に何度も下りてきては、山脈、雪景色、森、荒々しく砕ける波、白い白鳥に満たされている岸辺などの風景を映し出している。

特に作品の終盤では、いきなり舞台が暗転し、まるで水槽の中で金魚が泳いでいるような映像が大スクリーンいっぱいに映し出される。すると、黒い衣装にすっぽりと身を包んだピナ・バウシュが、スポットライトを当てられることもなく舞台下手から上手に向かって歩いて行くのである。映像の中での金魚はゆっくりと左右に泳ぐが、次第に速度を速め、ついには上下に泳ぎ出す。舞台一面(全面)に映し出された巨大な金魚が様々な状態で泳いでいる光景をよそに、舞台上手にいるピナ・バウシュの動きは、何かによって揺り動かされているかのように、上半身を主動にして全身を使ってゆっくりと流れるようである。

その姿は、彼女のまとう黒い衣装と動きから、まるで水槽の中にある藻ではないかと考えられる。水槽の中にある藻は、金魚たちが泳ぐたびに水の流れによって揺らぐが、根元の部分は動じない。水面に近づけば、様々な要素で起こる水の流れに

よって揺らぎは大きくなる。金魚の映像とピナ・バウシュの黒い衣装、さらに舞台上手で藻のように揺れるピナ・バウシュの動きを含む舞台空間全体が一つの水槽の中のドラマではないかと考えられるのである。

ピナ・バウシュのソロを「藻」と解釈すると、藻の役割が必然的に浮かび上がってくる。「藻」は地球上のすべての生物の排出する二酸化炭素を吸収し、それらが必要とする酸素を発生するという重要な役割を担ってきたわけで、このことから考えると、それは人類のカギであると言えよう。ピナ・バウシュは藻を表現することで、生命の、そして人類の、さらには舞踊の「起源」を表そうとしたのではないかと考えられる。

ところで舞踊は、人間の起源とともに古く、人間の存在様式そのものである。さらに、人間が自然界にいるカミとの交信をする手段として行われるもので、人間が憑依状態(トランス)の時の「自分のものであって自分のものではない身体というものへの畏怖」から生じた、とされる。人間は自然と共生しながら、自然との対話によって、踊ってきたわけであるが、ヨーロッパ近代において自然は、人間にとってまさに征服の対象として存在したのである。さらに文明の進歩は感情を表現しようとする衝動をあまりにも厳格に、理性の支配のもとに導き、その結果、様式化され、機械化された形式と模倣芸術を生み出した。この文明社会の様式化した優雅な舞踊は、まさに理性を中心とする近代合理主義が生み出した舞踊の姿であり、前近代までの「生」を剥ぎ出しにした「野蛮な」舞踊は、理性的ではない、合理的ではないものとして排除されることになってしまったのである。しかし人間は生まれてから死に至るまで、多種多様な動きをする。その動きは、意識・無意識的にかかわらず、様々な他者と関わることによってはじめて成り立つのである。

現代の最先端技術を使用した映像を、スポットライトにも当たらない生身の身体で踊るピナ・バウシュの存在感は薄い。しかし、彼女のソロはまさに、現代の高度化したテクノロジーの前で、他者との関わりをメッセージとして託していたのではないかと考えられる。

## おわりに

人は、生まれてから死ぬまで意識的、無意識的にかかわらず、他者と交流しながら、様々なダンスをしていると考えられる。作品『DANZÓN』は、他者を否定する近代的自己中心主義から今一度、原点に戻り、他者を受け入れ、人間とは何か、人間にとって舞踊とは何かを問っているように思われてならない。